

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
------	----	-----	----	-----	----	-----

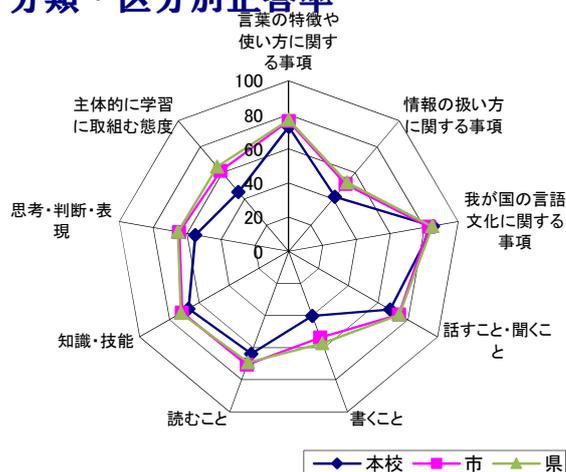
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	41.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	85.1	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	68.1	74.1	74.2
	書くこと	40.1	53.7	57.2
	読むこと	63.8	70.7	69.2
観点	知識・技能	67.2	71.6	72.3
	思考・判断・表現	55.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	45.5	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

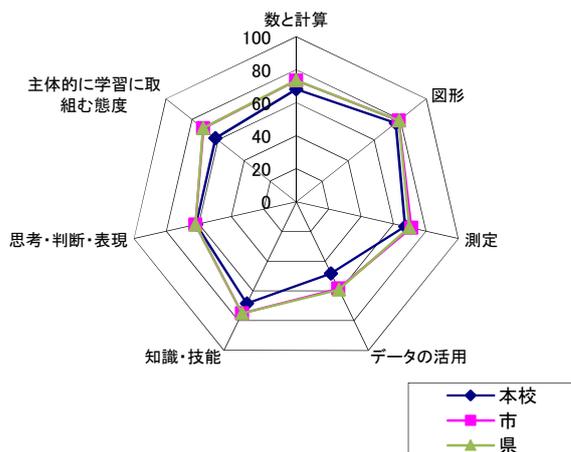
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は73%で、市の平均より3.4ポイント、県の平均に比べて4ポイント低い。 ●「主語と述語を理解している」についての正答率は59.6%で、県の平均より15.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係性について理解させる学習に取り組む。 ・積極的に国語辞典を使う機会を設ける。 ・タブレットを活用し、ローマ字に慣れ親しむようにする。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は41.8%で、市の平均より9.7ポイント低く、県の平均に比べて10.9ポイント低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している」についての正答率は36.2%で、県の平均より15.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の読解では、キーセンテンスやキーワードを手掛かりに文章を要約する学習を行う。その際、文字数を制限するなどの条件をつける。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は85.1%で、市の平均より0.6ポイント高く、県の平均より0.4ポイント高い。 ○「第3学年に配当されている漢字を正しく読んでいる」についての正答率は88.6%で、県の平均より1.1ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、上央小漢字検定を活用し、繰り返し学習に取り組んでいくことで定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は68.1%で、市の平均より6ポイント、県の平均より6.1ポイント低い。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」についての正答率は63.8%で、県の平均より7.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして自分の考えを発表する練習に取り組む。 ・話し合い活動の中で、友達の意見を比べながら聞く機会を増やす。 ・話し手の意図していることを考えながら聞くことができるよう、日常的に指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は40.1%で、市の平均より13.6ポイント、県の平均より17.2ポイント低い。 ●「6行～8行で書く」についての正答率は、県の平均より34.7ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを生かして文章を構成する学習や文章を書く際に、行数や段落、キーワードなどの条件を指定して書く学習に取り組む。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は63.8%で、市の平均より6.9ポイント低く、県の平均より5.4ポイント低い。 ●「叙述を基に段落の内容を捉えている」についての正答率は36.2%で、県の平均より10.5ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文を読解では、段落内のキーワードを捉えさせ、文章構成を理解させていくよう指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	73.5	73.6
	図形	76.6	79.0	79.1
	測定	67.2	71.1	69.8
	データの活用	48.2	58.4	59.2
観点	知識・技能	68.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	61.7	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	62.0	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

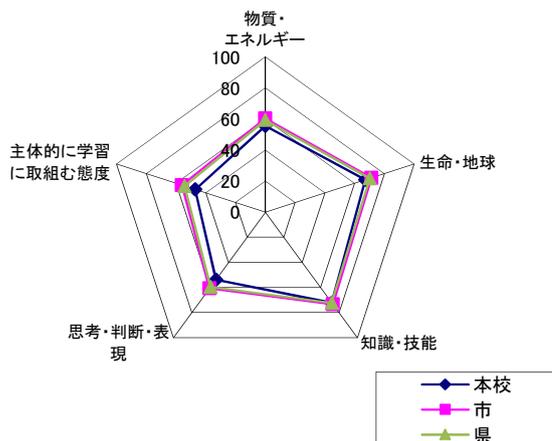
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は68.2%で、市の平均より5.3ポイント低い。 ○「3けた+4けた=4けた」や「3けた×1けた」などの問題は、県の正答率とほぼ同じである。 ●分数の数直線上での表し方についての正答率は44.7%で、県の正答率より25.7ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も基礎・基本の確実な習得を目指し、朝の学習の充実や上央小計算検定を活用して、数と計算の力を伸ばしていく。 ・図や数直線を用いて自分の考えを表す活動を行い、知識の定着を図るとともに、実感的な理解を深めていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は76.6%で、市の平均より2.4ポイント低い。 ●正三角形を作図する問題の正答率78.7%で、県の平均より9.1ポイント低い。 ○円の半径についての正答率は78.7%で、県の平均より2.5ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図の手順やコンパス・三角定規の使い方を正しく理解させるとともに、少人数指導で個別支援を充実させていく。 ・ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。
測定	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は67.2%で、市の平均より3.9ポイント、県の平均より2.6ポイント低い。 ○1000m=1km, 1000g=1kgの関係の校内正答率は72.3%で、市の平均より17.3ポイント高く、よく理解できていた。 ●指定された時刻に着くために、何時に家を出るとよいかを足し算、引き算を使って求める問題の正答率は57.4%で、県の平均より14.3ポイント低い。 ●「道のり」という言葉の理解を問う問題の正答率は80.9%で、県の平均より7.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の意味が分からないと立式できないので、文章を読み取る読解力をつけるようにする。文章から分かることと問われていることを区別できるようにしたり、立式するために絵や図を使って文意を整理できるように指導する。 ・「道のり」「きより」などの算数の言葉を正しく理解して使えるよう指導する。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は48.2%で、市の平均より10.2ポイント、県の平均より11ポイント低い。 ●条件の違う2つの棒グラフから事象を正しく読み取る問題の正答率は48.9%で、県の平均より9ポイント低い。また、無回答率が19.1%と高かった。 ●縦軸の単位量の違う棒グラフを比較する問題の正答率は57.4%で、県の平均より5.6ポイント低い。また、無回答率が17%と高かった。 ●1つのグラフで複数の観点データを比較する棒グラフの問題の正答率は38.3%で、県の平均より18.2ポイント低い。また、無回答率が17%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象について表やグラフを用いて考察する学習を重ねるようにする。また、今後の4年生で学習する二次元表の学習で、2つの状態を合わせて1つの条件として捉える知識や技能を、確実に身に付けられるようにする。 ・3年生の棒グラフの学習で、目盛りの付け方や読み方の指導を充実させたり、高学年生になっても同じグラフを異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較したりする学習を画像で示して継続して指導したりする。 ・棒グラフの数の比較は引き算によって解答できるので、基本的な問題を使って指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.5	60.2	59.2
	生命・地球	67.2	71.3	70.3
観点	知識・技能	72.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	53.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	47.2	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は55.5%で、市の平均より4.7%、県の平均より3.7%低い。 ○音の大きさの違いによって、わゴムがどのようにふるえるか考える問題の正答率は76.6%で、県の正答率より7%高い。 ●回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測する問題の正答率は31.9%で、県の平均より8%低い。 ●ソーラークッカーで料理ができる理由を説明する問題の正答率は38.3%で、県の平均より5.3%低い。 ●量の多い飲み物の容器にペットボトルが使われる理由を説明する問題の正答率は8.5%で、県の平均よりも8%低く、理解ができていないことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「明かりがつくためには、電気が通る回路になっている必要がある」ことを理解させるとともに、その知識を活用する問題を意図的に出題し、判断力を高めていく。 ・正答率の低い問題を考察すると、記述式の問題が多いことが分かる。観察や実験から分かったことをについて、単純な知識として覚えるのではなく、具体的な事象としてとらえ、詳しく説明することができるまでの知識を身に付けさせる必要がある。そのため、観察や実験で分かった結果や事象について、ペアやグループで説明し合う活動を増やすことで、理科的なものの見方や考え方を育てるとともに、科学的な言葉や概念の定着を図る。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は67.2%で、市の平均より4.1%、県の平均より3.1%低い。 ○完全変態と不完全変態の昆虫についての問題の正答率は80.9%で、県の平均より5.9%高い。 ●植物の育ち方の問題で、知識・技能を図る問題の正答率は県の平均より高いが、思考・判断・表現を図る問題の正答率は県の平均より13.1%と大きく下回っている。 ○太陽の動きから、影の位置を推測する問題の正答率は44.7%で、県の平均より3%高い。しかし、理解が十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の結果を知識として定着することに課題が見られる。まとめたことを、問題にして解かせるなどしていきたい。 ・観察・実験で使用する器具の名称や操作方法の定着に課題が見られる。児童一人一人が器具を操作する時間を十分に確保したり、器具を使う機会を意図的に設定し名称や操作方法を繰り返し確認したりすることで、体験的に知識・技能の定着を図る。 ・観察・実験の結果を考察したり学習のまとめをしたりする際には、キーワードや話型モデルなどを示すことで、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。”

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が70.2%で、県の平均より10.4ポイント高い。「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布したり、全児童に家庭学習の取り組み方の指導をしたりした成果が表れている。

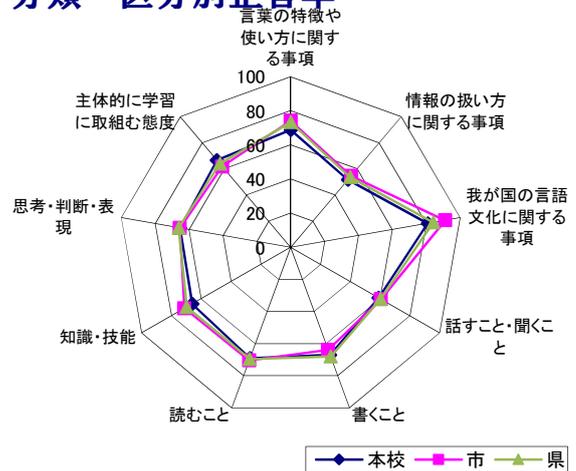
●「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が83%で、県の平均より6.4ポイント高い。一方、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の質問では、57.5%の児童が否定的回答をしており、県の平均より10ポイント低い。自信をもって発表できるような声掛けや、発表の仕方を定着させるような指導の工夫が必要である。

●「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が、91.5%で、県の平均より7.5ポイント高い。しかし、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が59.6%と、県の平均より13.6ポイント低い。授業の最後には、まとめだけでなく、振り返りもしっかりと行えるよう、教師が児童に示していくことが必要である。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.9	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	51.8	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	80.9	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	59.1	60.6	60.4
	書くこと	67.0	63.8	68.0
	読むこと	69.1	70.4	69.6
観点	知識・技能	66.1	71.3	69.9
	思考・判断・表現	65.2	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.8	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

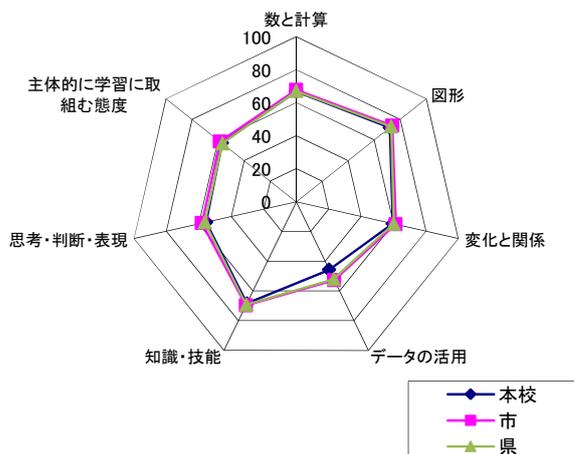
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は68.9%で、市の平均より5.3ポイント、県の平均より4.4ポイント低い。 ●漢字を書く問題では、「健康」の正答率は48.9%で県の平均より12.6ポイント、「争う」の正答率は36.2%で県の平均より18.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の学習の時間や上央小漢字検定を活用し、繰り返し漢字の読み書きの学習に取り組んでいくことで、定着を図っていく。 ●家庭学習チャレンジ週間の機会などを利用し、家庭でも繰り返し漢字の学習に取り組む習慣が身に付くよう指導していく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は51.8%で、市の平均より2.9ポイント、県の平均より2ポイント低い。 ○「情報と情報との関係について理解し、理由や事例を挙げながら話す」問題の正答率は48.9%で、県の平均より4ポイント高い。 ●「情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える」問題の正答率は36.2%で、県の平均より4.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段の授業から情報と情報を関連付けて考えさせる機会を意図的に設定し、繰り返し指導していく。 ●資料を扱う単元や説明文の学習では、情報を丁寧に読み取ったり段落相互の関係を整理したりして理解を深められるよう指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は80.9%で、市の平均より10.3ポイント、県の平均より3.3ポイント低い。 ●「ことわざの意味を知り正しく使う」問題の正答率は80.9%で、県の平均より3.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の学習や家庭学習を利用し、ことわざの学習にも取り組むことができるよう日常的に指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は59.1%で、市の平均より1.5ポイント、県の平均より1.3ポイント低い。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率は66.0%で、県の平均より11.1ポイント高い。 ●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」問題の正答率は31.9%で、県の平均より21.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図していることを考えながら聞くことができるよう、日常的に指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は67.0%で、市の平均より3.2ポイント高く、県の平均より1ポイント低い。 ○「指定された長さで文章を書く」問題では、76.6%で県の平均より8.7ポイント高い。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」問題では、51.1%で、県の平均より11.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文を書く時には段落を意識させ、段落の役割についての理解が深められるようにする。 ●自分の考えと理由や事例との関係を明確にして文章がかけられるよう指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は69.1%で、市の平均より1.3ポイント、県の平均より0.5ポイント低い。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有する」問題の正答率は74.5%で、県の平均より8.6ポイント高い。 ●「叙述を基に文章の内容を捉える」問題の正答率は74.5%で、県の平均より2.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段から叙述を基に文章を読み、それを根拠として自分の考えが述べられるよう指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.9	67.8	67.0
	図形	72.1	73.9	73.1
	変化と関係	59.6	61.4	60.2
	データの活用	45.7	52.7	52.1
観点	知識・技能	68.3	69.7	69.2
	思考・判断・表現	55.6	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	57.1	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

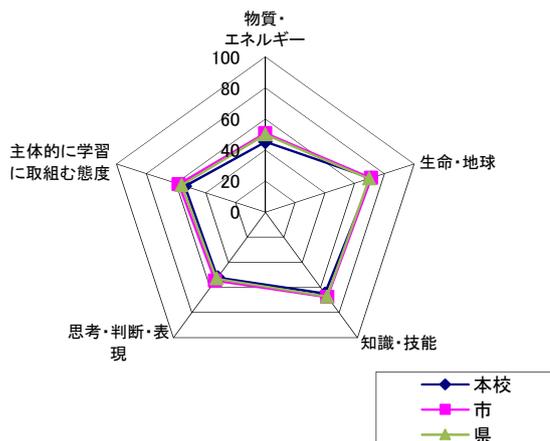
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は66.9%で、市の平均より0.9ポイント、県の平均より0.1ポイント低い。 ○「わり算・計算のきまり」や「小数」、「分数」の正答率は、県の平均より高い。 ●「十進位取り記数法について」、「整数、仮分数、帯分数、真分数の大小関係」の正答率は、県の平均より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容の正答率は高く、朝の学習や家庭学習を通じて、基礎的な内容の習得に力を入れた成果の表れと考える。 ・「十進位取り記数法について」、「整数、仮分数、帯分数、真分数の大小関係」で県の平均を下回っており、繰り返しの学習が必要である。 ・概数の表し方では、問いに合う概数にするために四捨五入する位を選ぶことの理解が足りないと思われるので、単元の学習が終了した後も、定期的に家庭学習などで取り組ませる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は72.1%で、市の平均より1.8ポイント、県の平均より1ポイント高い。 ○「長方形の面積を求めること」や「直方体の性質」の正答率は、県の平均より高い。 ●「四角形の辺の長さの性質」の正答率は、県の平均より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。 ・図形の特徴や性質を見つける学習では、具体物を使ったり話し合い活動を充実させたりして丁寧に指導を行い、理解を深めていく。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は59.6%で、市の平均より1.8ポイント、県の平均より0.6ポイント高い。 ○「伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めること」の正答率は97.9%で、県の平均より9.7ポイント高い。 ●「数量の関係を、割合を使って説明すること」の正答率は40.4%で、県の平均より8.5ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、児童の日常生活と関連した教材の設定を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ・いろいろな文章問題に取り組ませ、既習事項の中の何を言えば答えを求められるのかを考えられるような経験を積みませていく。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は、45.7%で、市の平均より7ポイント、県の平均より6.4ポイント低い。 ○「二次元表の読み取り」の正答率は48.9%で、県の平均より1.3ポイント高い。 ●「折れ線グラフを正確に読み取ること」、「読み取ったことを根拠に理由を説明すること」、「折れ線グラフと棒グラフの読み取り」の正答率は、県の平均より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習において、文章を読んで内容を理解することにさらに力を入れ、問題文から必要な情報を読み取れるように指導していく。 ・答えの導き方だけでなく、根拠や理由を言葉で表現する活動を繰り返し取り入れるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	45.2	50.8	50.0
	生命・地球	71.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	64.9	67.6	67.2
	思考・判断・表現	51.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	54.0	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は45.2%で、市の平均より5.2ポイント、県の平均より4.8ポイント低い。 ○「ものの温度と体積」の実験結果をもとに、理由を推測する問題の正答率は61.7%で、県の平均より11.8ポイント高い。 ○「金属のあたため方」についての正答率は66%で、県の平均より8.3ポイント高い。 ●「水は温度によってどのようなものに変えるか」についての正答率は53.2%で、県の平均より16.1ポイント低い。 ●電気のはたらきの「電池のつなぎ方の名称」についての正答率は51.1%で、県の平均より13.5ポイント、「検流計の針の振れ方」についての正答率は31.9%で、県の平均より12.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が日常生活のどのような場面に当てはめて用いることができるかについて触れたり、学習内容と日常生活の関連を重視した活動を意図的に設定したりすることで、習得した知識・技能を活用して問題を解決する力を育てていく。 ・必要項目の一部分のみ理解しているなど、知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項についても繰り返し問題に取り組ませることで、基礎・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。 ・記述で説明する問題では、選択式、短答の問題に比べて無回答率が高い。書いても問題に合わない回答をする児童が多いなど課題が見られる。観察・実験の結果を考察したりまとめたりする際に、キーワードを示すなど工夫をし、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は71.1%で、市の平均と同じ、県の平均より1.3ポイント高い。 ○「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する」問題の正答率は66.0%で、県の平均より12.3ポイント高い。 ○「土の粒の大きさと水はけの関係を指摘する」問題の正答率は76.6%で、県の平均より16.1ポイント高い。 ●「方位磁針の正しい使い方」の問題の正答率は29.8%で、県の平均より8.4ポイント低い。 ●「オオカマキリの季節ごとのようす」を選択する問題の正答率は51.1%で、県の平均より7.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験で使用する器具の名称や操作方法の定着に課題が見られる。児童一人一人が器具を操作する時間を十分に確保したり、器具を使う機会を意図的に増やし、名称や操作方法を繰り返し確認したりすることで、体験的に知識・技能の定着を図る。 ・体験的な活動を通して確かめた事項や、そこから関係づけて考えたり資料を使って調べたりした事項についての知識の定着に課題が見られる。今後も、体験的な活動を取り入れ、さらに関連のある事項についても図や表を用いて関連付けてまとめるなど、実感を伴った理解を図っていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が89.4%で、県の平均より21.2ポイント高い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が74.5%で、県の平均より8.2ポイント高い。地域学校園で作成している「学習のすすめ」をもとに、低学年の頃から指導を続けてきたことで、家庭学習に取り組む態度が育ってきていると思われる。今後も継続して家庭学習の充実を図っていきたい。

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が89.3%で、県の平均より9.3ポイント高い。「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の質問の肯定的な回答の割合は、9割を超えている。全教員が、中央小スタンダードを意識した授業づくりを工夫している成果が表れている。今後も継続していきたい。

●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の質問では、1時間未満の児童が59.5%で、県の平均より21.6ポイント高い。家庭学習に取り組む態度は育っているものの、5年生の学習時間(目安1時間以上)としては、十分とは言えない状況である。また、「ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームは除く)」の質問では、2時間以上と答えた児童の割合が61.7%で、県の平均より9.7ポイント高い。テレビやビデオ・DVDなどの動画視聴時間が長いことで、学習時間が十分に取れていないことが考えられる。児童に家庭学習の指導を重点的に行うとともに、保護者に取組内容や時間の確認を依頼するなど、家庭と連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるようにする指導に努めていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な習得	上央小漢字・計算検定や朝の学習時間を活用し、基礎基本の確実な習得を目指して繰り返し学習に取り組んでいる。	4年生では国語・算数、5年生では国語・理科の知識・技能の正答率が市や県と比べて低かった。特に、国語では、漢字や言葉の理解が十分ではないことが分かった。ドリルやワークシートなどを活用して繰り返し漢字の学習に取り組んだり国語辞典・漢字辞典を活用する機会を増やしたりして十分な力を身に付けられるようにしていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の中で、目標がしめされている」の4・5年生の肯定割合の平均は9割に近いが、授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っているの肯定割合の平均は、7割程度で低かった。また、「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合の平均も7割程度と、主体的に学習に取り組む姿勢が低いことが伺える。	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを目指して～はつきり・じっくり・すっきり～の学習過程の工夫～	上央小スタンダードを活用し、はつきり・すっきり・じっくりを意識した授業を展開する。また、授業のねらいやまとめを明確にするとともに、振り返りの時間を十分に確保し、学習の充実を図っていく。